新潟県立近代美術館・万代島美術館収蔵作品データベースの改良について

佐藤 克己

はじめに

昨年度、『研究紀要』第９号で、「新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵作品データベースの作成について」を記し、昨年度の所蔵作品データベース作成について発表した。今回は、今年度の主な改良点を記すこととする。

なお、今年度のデータベース改良に際しては、当館の所蔵作品に限定せず、寄託作品もデータベース化してきたことから、「収蔵作品データベース」とした。

今年度の業務の中でも、この収蔵作品データベースの改良は私自身にとっても、また当館にとっても重要な業務の一つであると考え、改良を重ねてきた。

今年度の改良で心がけてきたことは、下記の３点である。

① 当館職員のニーズを取り入れ、データベース操作に詳しくない職員でも容易に使え、なおかつ実用的なデータベースにする。そのために、リレーションシップ(註１)やスクリプト(註２)、関数(註３)などを効果的に使用する。

② 『作品基本台帳』、『作品基本カード』、『作品ポジフィルム』、収蔵庫での収蔵場所等収蔵作品に関するデータを一元管理できるようにする。

③ 将来的に来館者用公開所蔵作品データベースも、この収蔵作品データベースで作成できるようにする。

(註1)
リレーションシップとは、複数のテーブルやファイルを関連づける機能である。テーブルとは、データの集まりのことである。

(註2)
スクリプトとは、複数の作業を連続して自動実行するための機能である。マイクロソフト社のワードやエクセル等のVBAなどと同様の機能である。

(註3)
関数とは、特定の計算を行い、その結果を返すようにあらかじめ設定された式のことである。

１ 使用するデータベースアプリケーションの変更

収蔵作品データベース改良にあたっては、昨年度から継続してファイルメーカー社のファイルメーカープロ10をアプリケーションソフトとして使用することとした。これは、初心者にも使いやすく、画面レイアウトの設定・変更が容易であることによる。

ただし、これでは、ファイルメーカープロ10がインストールされていないパソコンではデータベースを使用できないため、新たにファイルメーカープロ10　アドヴァンスドを購入した。

このアプリケーションにより、下記のことが可能となった。

① スタンドアロン形式のランタイムデータベースソリューション(註４)を作成することができ、ファイルメーカープロ10がインストールされていないパソコンでも、検索・閲覧が可能となる。（ただし、書き込みは不可）

② キオスクモード(註５)を作成でき、これによりメニューバーを表示させないことが可能となり、来館者用公開所蔵作品データベースも作成できる。

(註4)
ランタイム（run-time）とは、アプリケーションソフトを実行する際に必要となるソフトウェアモジュール（部品）のこと。Windowsの場合はDLLファイルの形で提供される。ソリューション（solution）の元の意味は「束縛から解放されたもの」。ラテン語で「束縛から解放された」を意味する形容詞solut（us）に-ionをつけた英語の名詞である。

(註5)
キオスクモードとは、一般利用者が画面を操作して終了したりデータを変更したりできないように、決められた操作しかできないような画面にすること。インターネット・エクスプローラー等でも同様の機能がある。

２ 主な改良点

このファイルメーカープロ10　アドヴァンスドを使用して作成された１月末現在のトップページが図１である。

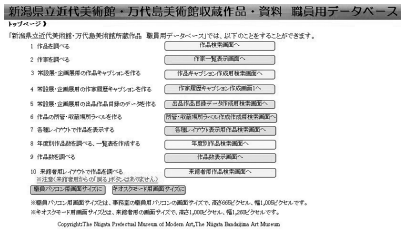

図１

このファイルメーカープロ10　アドヴァンスドを使用して作成された１月末現在のトップページが図１である。

収蔵作品データベースで現在できることは、

１ 作品を調べる

② 作家を調べる

３ 常設展・企画展用の作品キャプションを作る

④　常設展・企画展用の作家履歴キャプションを作る

5　常設展・企画展用の出品作品目録のデータを作る

6　作品の所管・収蔵場所ラベルを作る

⑦　各種レイアウトで作品を表示する

⑧　年度別作品数を調べる、一覧表を作成する

⑨　作品数を調べる

⑩　来館者用レイアウトで作品を調べる

であり、このうち○で書かれた2、4、7、8、9、10は、昨年度から改良して新たに加えた機能である。

次に、主な改良点を紹介する。

（1）　テーブル、リレーションシップの設定

昨年度作成した所蔵作品データベースでは、入力できるフィールド(註6)を、画像4項目を含む108項目で設定していた。その後、作品に関するフィールド群と作家に関するフィールド群を分けて設定すれば利便性が高いことが分かってきた。

例えば、横山操の作品は65点あるが、作家履歴の修正を作品1点ずつで65回行うよりも、作品に関するフィールド群と作家に関するフィールド群に分け、作家に関するフィールド群で1回修正すれば、すべての作品で作家履歴の修正が反映されるように設定できれば、作業を効率的に進めることができる。

そこで、今年度は作品に関するフィールド群103項目と作家に関するフィールド群38項目に分け、収蔵作品データベース「sakuhin」本体の中に「収蔵作品データベース」「作家データベース」というテーブルを設定し、「収蔵作品データベース」テーブルにはNo001からフィールド名を割り当て、「作家データベース」テーブルにはNo301からフィールド名を割り当てた。

さらに、「収蔵作品データベース」テーブルの「No009作家名(外国苗字前)」と「作家データベース」テーブルの「No301作家名(外国苗字前)にリレーションシップを設定した。

1月末現在で、「収蔵作品データベース」テーブルには6,461レコード、「作家データベース」テーブルには770レコードを登録していて、リレーションシップを活用することにより作業の効率化が図られている。

（2）「作品を調べる」機能

「作品を調べる」の検索画面を、図2のように改良した。

図2を見て分かるように、「所蔵作品」「寄託作品」による絞り込み、ジャンルによる絞り込み、取得年度による絞り込み、コレクション等による絞り込み等、必要に応じてすぐに検索できるように検索画面を改良した。

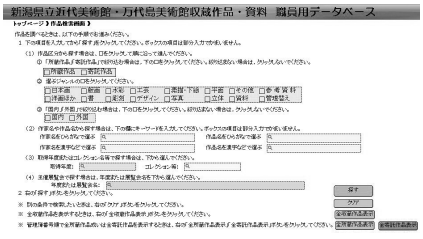

図2

図3

例えば、ここで「日本画」を選択すると、図3のように表示される。このように、まず外国作品を次に国内作品を、外国作家はアルファベット順に国内作家は五十音順に、所蔵作品・寄託中の作品併せて表示できる

(註6)
ファイルメーカープロ10はカード型データベースで、データの集まりを「レコード」と呼ぶ。このレコードの中のデータ項目を「フィールド」と呼ぶ。

ようにした。

こうした表示を可能にしているのが、「スクリプト機能」である。「作品を調べる」の「選ぶ」ボタンでは、次の作業を自動的に実行している。

①検索実行

②レコードのソート(註7)

○No307目録用作家名

○No001物品管理簿番号

③レイアウト(註8)切り替え

(該当作品一覧画面)

④ブラウズモード(註9)に切り替え

こうしたスクリプトはこの収蔵作品データベースでは101個を登録しており、このスクリプト機能によって、スムーズな処理や画面表示が可能となっている。

また、該当レコード数は関数を用いて表示しており、日本画であれば523点であることがすぐに分かるようにした。ここでは、「=Get(対象レコード数)」という関数を使用している。

さらに、作品の詳細情報を見たい場合は、作品名または画像をクリックし、図4のようにタブ式作品表示画面を表示するようにした。このタブ式表示画面にしたことで、一つの画面で、多くの情報を見ることができるようになり、画面切り替えの煩わしさから解放されるようになった。

このタブ式表示画面で改良を加えた箇所として主催展示歴の展示回数があり、ここにも関数を使用している。

「主催展示回数」では「=PatternCount(No047主催展示歴;No103主催展示歴検索文字)」という関数を使用している。この主催展示歴とは、近代美術館・万代島美術館が主催した展覧会(巡回ミュージアムを含む)で、その作品が過去に何回展示されたかを調べるための機能で、図5のように、「○(すべての展示回数)」、「近代美術館のみ」、「万代島美術館のみ」、「巡回ミュージアムのみ」の回数を表示できるように設定した。この4項目は、値一覧(註10)で設定した。

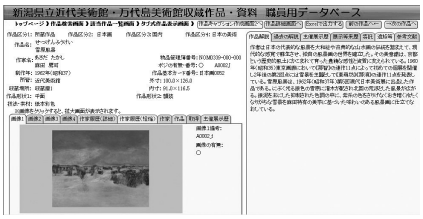

図4

(3)「作家を調べる」機能

今年度改良した点として、作品に関する項目群と作家に関する項目群を分けたことは前述のとおりである。

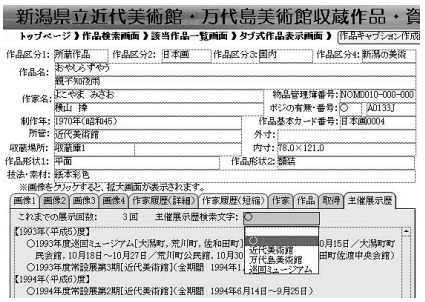

図5

「所蔵品目録の順番に表示する」を選択して表示されるのが、図7である。

作家名をクリックすると、図8のように作家詳細表示画面に切り替わる。この中で、

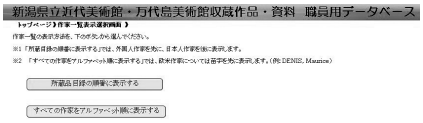

図6

(註7)
ソートとは、レコードを一定の基準で並べ替えることをいう。

(註8)
レイアウトとは画面表示のことで、収蔵作品データベースでは88のレイアウトを使用している。

(註9)
モードとは、画面表示方法のことで、ブラウズ(閲覧あるいはデータ更新する)、検索(データを検索し、必要なデータのみを表示する)、レイアウト(画面を作成する)、プレビュー(印刷用に確認する)の4タイプがある。

(註10)
「値一覧」とは、指定された文字のみを指示された順番に表示するように設定することを指す。

(註11)
「所蔵品目録の順番に表示する」は、ソートを「No307目録用作家名を昇順で実施」とスクリプトに記述しており、「すべての作家をアルファベット順に表示する」は、ソートを「No306目録用作家名(欧文)を昇順で実施」とスクリプトに記述していることで可能となっている。

「作家名　外国苗字前」「作家名　外国苗字後」「目録用作家名」と似たフィールドがあるが、これらのフィールドがあることによって、ソートを自在にできたり作家履歴キャプションを容易に作成できたりするようになった。

（4）「作品キャプションを作る」機能

作品キャプションを作成する機能は、昨年度中にも一応完成していたが、今年度は職員の希望も取り入れて、改良してきた。

改良の1点目は、図9のようにキャプションを作成したい作品の検索を作品区分ごとに行うか、すべての収蔵作品を作品区分ごとあるいは管理簿番号順に一挙に表示してから行うかを選択できるようにしたことである。昨年度までなかった「すべての収蔵作品を作品区分ごとに表示し選んでから、PDFで作成する、またはExcelでデータを作成する」を選ぶと、図10のように表示される。

この画面で必要な作品の「選ぶ」をクリックして選択し、『「選ぶ」のみ表示』をクリックすると、キャプションを作成したい作品のみが「作品キャプション作成用作品一覧画面」で表示されるのは、図11のように昨年度と同様である。

この画面で、「作品目録一覧画面へ」をクリックすれば、図12のように「作品目録一覧画面」に切り替わり、出品作品目録のデータを即座に作成できるようにした。

「作品キャプション作成用作品一覧画面」で『「作品キャプション用データ表示画面」へ』をクリックすると、図13のように作品キャプションを作成する際に必要なデータを表示する。

この状態でよければExcelに出力し、さらにPDFに出力する場合は「PDF用作品確認画面へ」をクリックすると、図14のような画面が表示され、PDFデータを作成することも可能である。

う

（5）「作家履歴キャプションを作る」機能

作家履歴キャプションを作る際も、「所蔵品目録の順番に表示する」「アルファベット順に

図7

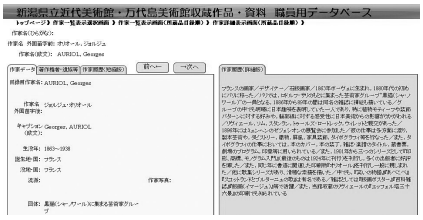

図8

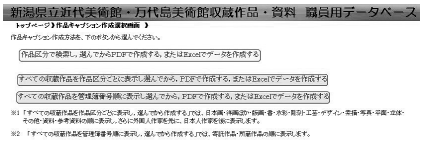

図9

図10

図11

図12

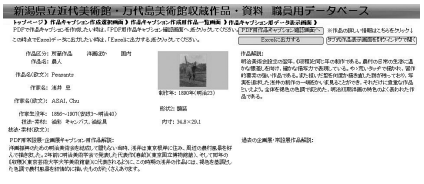

図13

表示する」を選択できるようにした。

所蔵品目録の順番で表示すると、「作家履歴キャプション作成画面1」では、図15のように表示される。

作成したい作家を「選ぶ」をクリックして絞り込み、『「作家履歴キャプション作成画面2」へ』ボタンをクリックすると、図16のように表示される。

この2つの画面で改良したのは、外国人作家の表記を変更していることである。

図15では、「バルバリ,ヤーコポ・デ(BARBARI,Jacopo dé)」と表示しているが、図16では「ヤーコポ・デ・バルバリ(Jacopo dé, BARBARI)と表示している。

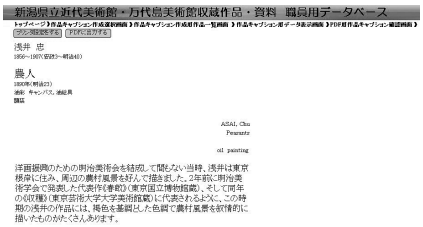

図14

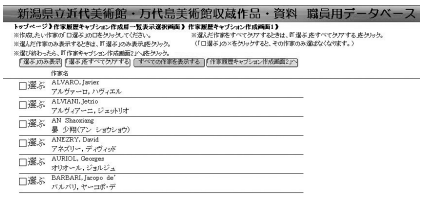

図15

これは、図15で使用しているフィールドを「No301作家名(外国苗字前)」「No306作家名(目録欧文)」にしていて、図16では「No302作家名2(外国苗字後)」「No308作家名(キャプション欧文)」していることで可能となっている。

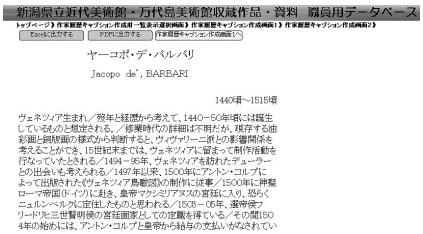

図16

図17

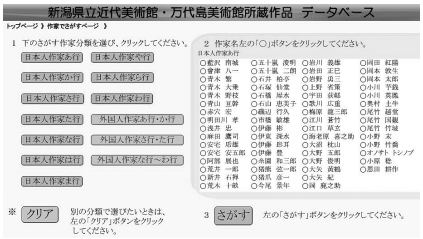

図18

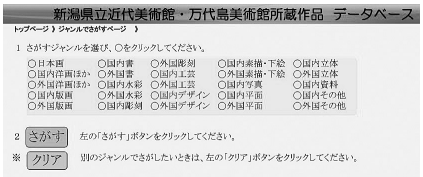

図19

ここからは、Excelに出力するかPDFに出力するかを選択して、完了である。

（6）　来館者用公開所蔵作品データベースの作成

収蔵作品データベースを作成するにあたり、職員用の作品データベースを来館者用公開所蔵作品データベースにも応用できないかを考えてきた。

検討をしてきた結果、ファイルメーカープロ10　アドヴァンスドを使用することで、キオスクモードのランタイムデータベースソリューションを作成することで、可能となった。

来館者用で心がけたことは、できるだけシンプルな画面表示にすることである。将来的にWindows 7でタッチパネル式のモニターを使用した際に、指一本で操作できるようにした。

来館者用公開所蔵作品データベースのトップページは、図17のように「ジャンルでさがす」「作家でさがす」の2種類で検索できるようにした。

「作家でさがす」をクリックすると図18の画面に、「ジャンルでさがす」をクリックすると図19の画面となる。

図20

図21

ここで、日本画を選択すると、図20の画面となる。

ここで表示される作品は、「No069　公開・非公開フラグ」フィールドで、「公開」と入力された作品のみとなる。こうすることで、公開できる作品を制限することができるようになった。

さらに作品名または画像をクリックすると、図21のように作品の詳細情報を表示できる。

3　ポジフィルムの整理

収蔵作品データベースの改良を進めていくなかで、ポジフィルムの番号付けが不十分であることも分かってきた。例えば、相澤コレクションが寄贈されたときに、ポジフィルムも寄贈されていたが、これらには番号付けがされていなかった。

ポジフィルムの撮影を事業計画の中に位置づけていることからも、ポジフィルムの整理が不可欠であることから、ポジフィルムの整理も収蔵作品データベース改良の一環として取り組んできた。

その結果、現在当館には2,546種類のポジフィルムが保管されていることが分かり、すべてのポジフィルムに番号付けが完了した。

おわりに

収蔵作品データベース作成にとりかかり２年が終わろうとしているが、ようやく実用的なデータベースになりつつあると感じている。

他の職員が常設展の作品キャプションや作家履歴キャプションを作成する際に、この収蔵作品データベースを活用している姿を見ると、データベースを改良してきた意義を実感している。

今後は、すべてのポジフィルムのデジタルアーカイブ化を進めること、未整備のデータを入力していくことの２点を当面の課題としていきたい。また、職員のニーズに応え、職員が必要とする機能をさらに充実させていきたい。

（新潟県立近代美術館　副参事）

Improving the Database of Works Owned by the Niigata Prefectural Museum of Modern Art and the Niigata Bandaijima Art Museum

SATO, Katsumi

I was working on improving the database of works owned by the Niigata Prefectural Museum of Modern Art and the Niigata Bandaijima Art Museum this year. I changed the application software to FileMaker Pro 10 Advanced. I made this decision because this application can make a runtime database solution and a kiosk mode database file. A runtime database solution can be accessed even by computers that do not have FileMaker Pro installed on them. A kiosk mode database file can hide the tool bar.

I made a “works” table and an “artist” table, and I related these tables.

Moreover, I used scripts and formulas. Consequently, this database is very easy to use. I hope to further improve this database to make it even more user-friendly next year.

(Educator, The Niigata Prefectual Museum of Modern Art)